

乙訓の学び vol.2

～単元全体を見通した授業デザイン～

授業を構想する際、単元全体を見通して授業デザインを考えることはできているでしょうか？子どもたちの資質・能力を育てる授業づくりを行っていくことが、確かな学力を育成することにつながります。

また、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、単元全体を捉えて「引率スタイル」と「オリエンテーリングスタイル」の視点をうまく組み合わせた授業デザインになっているでしょうか？

このリーフレットを通じて、一緒に考えていきましょう。

引率スタイル



- 授業者が地図を持って目的地まで連れて行く。
⇒ 学習者は授業者の後をついて行く。

オリエンテーリングスタイル



- 学習者が地図を持って自分の力で目的地に向かう。
⇒ 授業者は必要な時にサポートする。



授業デザインにおいて、単元全体を捉えて「引率スタイル」と「オリエンテーリングスタイル」の両方の視点をうまく組み合わせることが大切です。このリーフレットでは、子どもたちが「学びの地図」を持ち、「何のためにするのか」が明確な学習活動に取り組みながら、必要に応じて他者と相談したり、学習を振り返って調整したりするなど、見通しをもって学びを深めていく「オリエンテーリングスタイル」の視点を取り入れた授業デザイン例について示しています。

京都府乙訓教育局

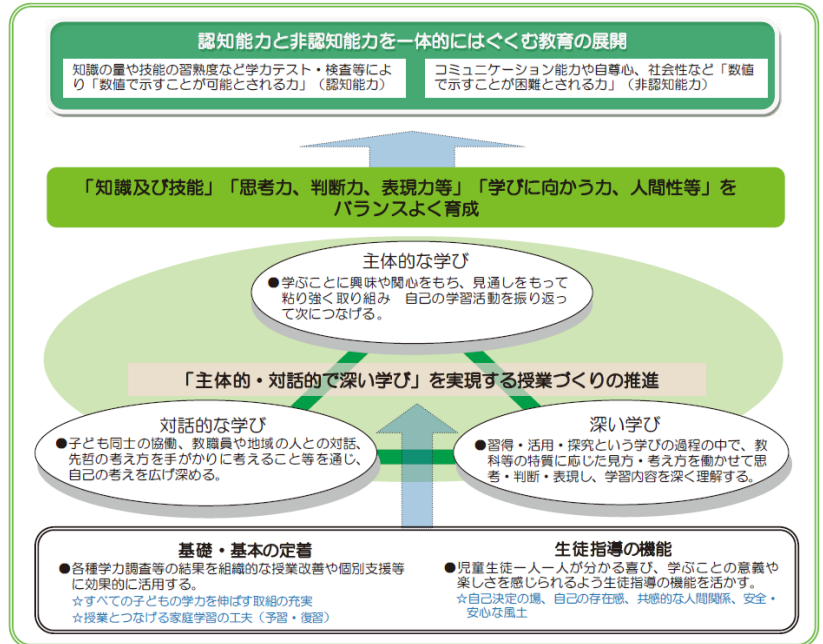
令和5年

乙訓の学び vol.1 及び
vol.2 のPDF版はこちら



今、求められている「学力」とは

右図のように京都府の学校教育の重点では、**認知能力と非認知能力を一体的にはぐくむ教育の展開**を目指しています。予測困難なこれからの時代において、子どもたちには自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、自ら判断して行動し、よりよい社会や人生を切り拓いていく力が求められます。それらの力の向上を目指して、知識や技能などの認知能力だけでなく、意欲や粘り強さなどの非認知能力をバランスよく、一体的にはぐくむことが重要です。



「主体的・対話的で深い学び」をより具体的にイメージしましょう

主体的な学び：学ぶことに興味や関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる。

主体の主語は？

興味や関心って？

粘り強くて
どんなイメージ？

どんな振り返りが
できればいいの？

対話的な学び：子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手がかりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める。

対話の相手は誰？

考えを広げ
深めるって？

何のための協働？
何のための対話？

「対話」って何？「会話」、「発表」、
「議論」、「討論」とはちがうの？

深い学び：習得・活用・探究という学びの過程の中で、教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせて思考・判断・表現し、学習内容を深く理解する。

深く理解するって、どんなことが
できていればよいの？

どう評価するの？

【学習者主体】

【解決方法を検討】

【付いた力や学び方の振り返り】

ゴールは
あっちだ！

こっちから
行ってみよう！

困ったな。
行き止まりだ。

あそこにいる人に
聞いてみよう。

着いた！あきらめ
なくてよかった。

こんなことができる
ようになった！



課題発見



解決の見通し



試行錯誤



課題の解決



振り返り



学習者の「主体的」な姿や「対話的」な活動について、各授業者がもっているイメージは、それぞれ異なっていることがあります。学校全体でどのようなイメージかを共有することが重要です。

「主体的・対話的で深い学び」を意図した授業デザイン例

算数科 授業デザイン例「平面図形の面積」(小学校第5学年)

問題を解くことによって、どんな資質・能力を獲得させるかを計画することが大切です。



【既習事項・経験知】

- ◆ものの形に着目して考察すること ◆様々な三角形や正方形、長方形などの性質を見いだすこと
- ◆長さや距離に着目して作図すること ◆正方形、長方形の面積を求めること
- ◆図形を構成する要素に着目すること ◆図形を構成する要素の位置関係に着目すること など

【ゴール】 三角形や四角形の面積について、その求め方や公式を考えたり説明したりすることを通して、面積を求めることができるようにしたり、平面図形の見方・考え方を深めたりするとともに、よりよく問題解決しようとする態度を養う。

【単元の目標】		【目標を達成するために付けたい資質・能力】	
知・技	○三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積の計算による求め方について理解し、それらの面積を公式を用いて求めることができる。	◆図形を構成する要素について理解を深める。 ◆二直線の位置関係について理解を深める。 ◆平行四辺形や台形、ひし形の性質について理解を深める。 ◆三角形、平行四辺形、ひし形、台形の求積ができる。 ◆どんな三角形(平行四辺形)でも、底辺の長さと高さが等しければ面積が等しくなることを理解する。	
思・判・表	○図形を構成する要素などに着目して、求積可能な図形に帰着させ、基本図形の面積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ確かな表現に高め、公式として導くことができる。	◆求積可能な図形に着目して考えることができる。 ◆面積の求め方を見いだすことができる。 ◆面積の求め方や式表現について、簡潔かつ確かな表現を考えることができる。	
主体的な学び	○求積可能な図形に帰着させて考えると面積を求めることができるというよさに気づき、三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積を求めようとしたり、見いだした求積方法や式表現を振り返ったりして、簡潔かつ確かな表現に高めようとしている。	◆求積可能な図形に帰着して考えることのよさに気付く。 ◆見いだした求積方法や式表現について、簡潔かつ確かな表現に高めようとする。 ◆多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えようとする。	
【時】	【学習活動】	【指導上の留意点】	【評価規準・評価方法など】
1 2 3	○平行四辺形の面積の求め方について考え、説明し、公式をつくる。 学びの道筋全体を見渡せるように…	・既習事項についての確認を行う。 ・用語(平行、垂直、対角線)について理解させる。 ・見いだした求積方法について、簡潔かつ確かな表現に高めようとする。	[思・判・表] 図形を構成する要素などに着目して、求積可能な図形に帰着させ、基本図形の面積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ確かな表現に高め、公式として導くことができているか確認する。
4 5 6 7	○三角形の面積の求め方について考え、説明し、公式をつくる。 ○どんな三角形でも、底辺の長さと高さが等しければ面積が等しくなることを理解する。	・既習の求積可能な図形に帰着させて考えるようにさせる。 この場面で付けさせたい資質・能力は…	[主体的な学び] 求積可能な図形に帰着させて考えると面積を求めることができるというよさに気づき、三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積を求めようとしたり、見いだした求積方法や式表現を振り返ったりして、簡潔かつ確かな表現に高めようとしているか確認する。
8 9 10	○台形、ひし形の面積の求め方について考え、説明し、公式をつくる。 ○学習内容の定着を確認する。 今までに獲得した力を発揮して… これを教えることが次の学びにつながる。	・図形を構成する要素や二直線の位置関係から、平行四辺形、台形、ひし形などの平面図形を捉えさせる。 ・正方形や長方形について、図形を構成する要素や二直線の位置関係から捉え直させる。	[知・技] 三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積の計算による求め方について理解し、それらの面積を公式を用いて求めることができるか確認する。

【第6学年での学習】 ◆縮図や拡大図 ◆対称な図形 ◆概形とおよその面積 ◆円の求積 など

【中学校での学習】 ◆作図の方法を考察すること ◆平行線や角の性質 ◆平面図形の合同と三角形の合同条件 など

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(国立教育政策研究所)及びわくわく算数5(啓林館)を基に作成



イメージしたゴールに至る道筋でどのような資質・能力を身に付ける必要があるかを具体的に考えることが大切です。そうすることで、1時間1時間の授業で何をやる必要があるかが明確になります。単元全体を見通して、どんな資質・能力を身に付けていくことが大切なのかを考えながら、計画を立てていきましょう。

「主体的・対話的で深い学び」を意図した授業デザインの実践



このリーフレットの内容を参考に「主体的・対話的で深い学び」を意図した「授業デザイン」を具体化させましょう。「毎回の授業で全ての学びが実現されるということではない」ということに留意して、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、「思考する場面」、「対話する場面」、「学習を見通して振り返る場面」など、授業者が意図をもって設定することが大切です。

単元を1つ選んで、以下の手順で授業デザインをしてみましょう！

ステップ1：単元の全体像を捉える

- ① 目標設定：身に付けさせたい資質・能力（単元のゴール）を明確にする。
- ② 実態の把握：目標に関連して、既習事項は何か、生活体験から得ていることは何かを確認する。
(診断的評価)
- ③ 評価規準：身に付いた資質・能力をどのように評価するか規準・方法を設定する。
- ④ 課題設定：単元の途中で学ぶ必然性がある学習課題を決定する。
- ⑤ 単元の導入：単元のはじめに学習者とゴールを共有し、見通しをもたせる導入を工夫する。

ステップ2：単元の全体像とつなげて授業を構想する

- ⑥ 単元全体を見通した授業デザイン
 - 単元のどこでどのような資質・能力を身に付けさせるか確認し、ゴールに向かう学習活動を設定する。
 - ⇒学習者が知識及び技能を習得する学習活動
 - ⇒学習者が習得した知識及び技能を活用し、思考する学習活動
 - ⇒学習者が深い理解を伴う知識及び技能を活用し、思考力・判断力・表現力等を高める学習活動
 - ゴールに向かう途中で必要に応じて軌道修正するための「指導に生かす評価」を行う。(形成的評価)
 - 身に付けさせたい資質・能力に関連付けて「具体的な振り返り」の場を設定する。
 - ※学習活動の仕方や学び方の振り返り、身に付いた力の振り返り等
 - 単元の終わりで達成状況を見取り、「記録に残す評価」を行う。(総括的評価)
 - ※「ねらい」を達成できているか、「自分でできる力」を身に付けているか等



☆参考資料

学習者が主体となって学ぶためには、学習者自身が「学びの全体像」を見渡せていることが必要だということですね。その上で、各教科等において、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」という学習者の学びの姿を具体的に描いて、創意工夫を重ねる授業デザインをすることが大切です。「引率スタイル」と「オリエンテーリングスタイル」という視点をうまく組み合わせて、充実した学びが実現する授業づくりに取り組んでいきましょう。

京都府教育委員会
学校改善支援プラン



国立教育政策研究所
全国学力・学習状況調査
授業アイデア例



国立教育政策研究所
「指導と評価の一体化」のための
学習評価に関する参考資料

